

住友金属工業株式会社 2008年度決算説明会(2009年4月28日開催)

質疑応答 概要

説明会出席者：専務執行役員 石塚 由成
経理部長 加藤 聖二
広報・IR部長 増田 信昭
IRグループ長 星 正人

(08年度実績に関して)

Q1. 前回説明会の08年度見通しと決算実績との損益差異要因は？

A1. 営業利益で約60億円上ぶれておりますが、厚板を主体とする販売構成の改善が主要因です。

カンパニー別では、厚板を含む鋼板・建材カンパニーが上ぶれ、スラブ販売に対して低価法を適用した鋼管カンパニーが下ぶれております。

Q2. 低価法の適用状況は？

A2. 見通しと同じく全社で200億円ほど低価法を適用し、棚卸資産簿価切下げを実施しています。

(09年度見通しに関して)

Q3. 持分法損益の見通しは？

A3. 上期はマイナス70億円程度を見込んでいます。

Q4. コスト改善額の見通しは？

A4. 08年度のコスト改善額は緊急施策もあり前年度よりも100億円程度上積みした250億円でしたが、今年度は更にこれを強化していくつもりです。

Q5. 全般的な需要動向についてどう見ているか？

A5. 第1四半期は08年度第4四半期と同程度の水準と考えています。第2四半期以降は徐々に需要は回復してくると思っていますが、まだ不透明要因も多いと見えています。

Q6. 09年度上期を四半期別に見るとどうなるか？

A6. 第1四半期は、原材料価格下落による評価損や原材料キャリーオーバー等の一過性要因が大きく、赤字になると考えています。第2四半期以降は、これら要因の縮小により黒字基調に復帰すると考えています。

- Q 7. 連結の営業利益の上期から下期に向けての増加要因は？
- A 7. 第1四半期から第2四半期への増加要因同様に、一過性要因の減少が主因となります。
- Q 8. 08年度下期から09年度上期にかけての営業利益増減要因のなかに、市況下落でマイナス200億円とあるが、輸出スラブの販売価格下落もこの中に含まれるのか？
- A 8. 東アジアの薄板市況は既に大きく下落していることから、スラブの販売価格についても下落を織り込んでいます。
- Q 9. 09年度見通しは、経常利益、特別損益共にゼロに対し、当期の純利益はマイナス200億円となっているがこの要因は？
- A 9. 連結の経常利益はゼロの見通しですが、単独では600億円の黒字を見込んでおります。この単独決算に対する税金をマイナス200億円見込んでいるのが要因です。

(品種別の状況に関して)

- Q 10. シームレスパイプの状況について説明してほしい。
- A 10. シームレスパイプのスーパーハイエンド品に関しては、09年度販売数量見通しも前年度比で増加しており、引き続き堅調です。OCTG(油井管)についても、長期契約ユーザーは堅調な動向となっています。輸出のスポット品等は、特に上期については、顧客の買い控えが生じており、若干厳しい状況と見えています。
- Q 11. シームレスパイプの価格の動向は？スプレッドは維持可能か？
- A 11. 長期契約の顧客とは、国内の紐付き顧客と同様に、相互理解のうえで価格を決定しており、評価損・キャリーオーバー・為替変動・減価償却費増減等の要因を除けば、スプレッドは維持しております。
- Q 12. 特殊鋼の状況と在庫状況についてはどうか？
- A 12. 特殊鋼は、需要減に加え最終製品になるまでのリードタイムが長いことから顧客の在庫圧縮影響も大きく、現在も低稼働率での操業を続けています。半製品の在庫が多い状況ですので、特殊鋼に関しては、需要の回復時期と住友金属小倉の粗鋼生産量回復時期には、若干のタイムラグが生じるケースがあると考えています。

Q 1 3. スラブ供給先も随分減産を実施しているが、和歌山製鉄所から提携先へのスラブ供給量について変更はないか？

A 1 3. 提携先へのスラブ供給量については安定しています。

Q 1 4. 和歌山製鉄所の新第 1 号高炉の稼働時期は？

A 1 4. 予定通り本年 7 月に稼働します。

新高炉での生産量については立ち上げスピードの調整によって、今後の需給状況の変化にフレキシブルに対応していく考えです。

以 上